

対策項目における発生段階別の考え方

	準備期	初動期	対応期
① 実施体制	役割整理や指揮命令系統等の構築、研修、訓練を通じた関係機関間の連携を強化	準備期における検討等に基づき、市及び関係機関における実施体制を強化、迅速に対策を実施	各対策の実施状況に応じて柔軟に実施体制を整備し、見直しを実施
② 情報提供・共有 リスクコミュニケーション	市民等の感染症に関するリテラシーを高め、市の情報提供・共有に対する認知度、信頼度を向上	感染拡大に備えて、市民に新たな感染症の特性や対策等の的確な情報提供・共有を実施	市民の関心事項を踏まえ、対策に対する市民の理解を深め、適切な行動につながるよう促す
③ まん延防止	対策の実施等に当たり参考とする必要のある指標やデータ等の整理を平時から実施	市内でのまん延の防止やまん延時に迅速な対応がとれるよう準備等を実施	まん延防止対策を講ずるとともに、効果等を総合的に勘案し、柔軟かつ機動的に切替え
④ ワクチン	関係機関と連携し、ワクチンの流通接種体制を構築	国の方針等に基づき、接種体制の立ち上げに向けて必要な準備を実施	確保したワクチンを円滑に流通させ、構築した接種体制に基づき迅速に接種を実施
⑤ 保健	連携協議会等を活用し、多様な関係機関との連携体制を構築	都の方針等に基づき有事体制への移行準備	都の方針等に基づき、求められる業務に必要な体制を確保
⑥ 物資	感染症対策物資等の備蓄等、必要な準備を適切に実施	市民の生命及び健康等への影響が生じることを防ぐため、有事に必要な感染症対策物資等を確保	初動期に引き続き、感染症対策物資等の需給状況の確認、生産要請等を適切に実施
⑦ 市民生活及び市民 経済の安定の確保	事業者及び市民に適切な情報提供・共有を行い、必要な準備を行うことを勧奨	事業者や市民に感染対策等、必要となる可能性のある対策の準備等を呼びかけ	準備期での対応を基に、市民生活及び市民経済の安定を確保するための取組を実施